

運輸系統の社員運用変更反対！

4月1日の一方的な実施に抗議する声明！

会社は、2005年4月1日より、「運輸系統の社員運用の変更」を私たちJR東海労や他労組の多くの組合員の反対にもかかわらず一方的に実施した。「4月1日実施前提ではない」「十分に協議する」と提案時の説明し、未説明の問題点がなお多くあるにもかかわらず、何らの修正も行うことなく強行実施したのだ。

私たちJR東海労は、あらためて反対の意志を明らかにする。

昨年8月4日の提案以降、本部は12回の申し入れと13回の団体交渉を行った。名古屋地本と各分会は、今回の「運輸系統の社員運用の変更」は多くの問題を含んでおり、安全をも阻害するものである、一時金などいらない！現行制度を適用せよ！毒まんじゅうだ！と情報化し掲示板に掲出すると共に、手渡しや郵送を通じてユニオン組合員に訴えかけてきた。

一方、ユニオンは、提案をスムーズに導入するため会社との出来レースを展開。職場組合員の声の封殺するために1月18日早々と妥結した後、私たちの情報に対し「男らしい」「毒まんじゅうは食わないんですね」「成果を出してみろ」と揶揄するかのごとく反論したが、それは、自らの成果を主張できない裏返しであり、ふき上がる組合員からの不満・意見を抑えるためのものに他ならず滑稽でもある。

ユニオン東京運輸所分会の声明に「将来に向けて安心して目標と意欲を持って働けるようにすることが大きな課題として残った」「もっと時間をかけて議論をするべきだった」とある。職場では、多くの組合員が不満、不安を抱き、問題点の解決を望んでいたにもかかわらず、これを無視し、会社の意のままに妥結した養殖ユニオンの犯罪性は計り知れない。

全組合員の皆さん！

東海労本部は3月29日、「運輸系統の社員運用の変更」について「現時点では妥結しない」ことを会社に通告した。

「運輸系統の社員運用の変更」の実施は、確実に新たな問題を発生させる。私たちは、今後も継続した取り組みを展開する。職場からのたたかいにより、この施策が大きな問題を抱えていることを他労組組合員や広く社会にさらに強く訴えていこうではないか。その拡がりこそ組織破壊を許さないたたかいである。

最後に、JR総連に結集する全国の仲間からの物心両面にわたる多大な支援・激励に対して厚く感謝を申し上げるとともに、最後まで闘い抜く決意を表明して見解とする。

2005年 4月 1日

JR東海労働組合名古屋地方本部